

幼保小の架け橋プログラム  
ガイドブック

# 北海道版幼児教育 スタートプログラム

つながろう

つなげよう 子どもの学びと育ち

北海道教育庁幼児教育推進センター



はじめに	2
------	---

## 01 幼児期及び架け橋期の教育の重要性

- 学びの連続性を確保した資質・能力の育成 ..... 3
- 幼児教育と小学校教育との円滑な接続 ..... 4
- 学びの芽生えから自覚的な学びへ ..... 5
- 後伸びする力を育む幼児教育 ..... 6

## 02 幼保小の架け橋プログラム

- 幼保小の架け橋プログラムとは ..... 7
- 幼保小の架け橋プログラムの効果 ..... 8
- 幼保小の架け橋プログラムで実施すること ..... 9

## 03 幼保小の架け橋プログラムの体制づくり

- 実施に必要な体制づくり ..... 10
- 推進協議会の設置 ..... 11
- 幼小合同会議の設置 ..... 12
- 園内・校内の基盤づくり ..... 13

## 04 架け橋期のカリキュラム開発

- 幼児教育と小学校教育との相互理解 ..... 14
- 共通の視点の検討 ..... 15
- 架け橋期のカリキュラムの内容
  - ・期待する子ども像 ..... 16
  - ・遊びや学びのプロセス ..... 17
  - ・先生の関わり ..... 18
  - ・環境づくり ..... 19
  - ・子どもの交流／家庭や地域との連携・協働 ..... 20

## 05 架け橋期のカリキュラムの実施・検証・改善

- PDCAサイクルの構築 ..... 21
- 園・小学校の実践
  - ・幼児教育施設編 ..... 22
  - ・小学校編 ..... 23
  - ・共通 ..... 24
- 架け橋期のカリキュラムの改善 ..... 25
- 自治体の支援 ..... 26

おわりに	27
------	----

参考資料	28
------	----

# はじめに

現代は、将来の予測が困難なVUCA※（ブーカ）と言われる時代です。

将来、大人になったときに変化の激しい時代を生き抜かなければならない子どものため、一人一人に高い資質・能力をしっかりと育成し、それぞれがウェルビーイングを実現していくことができるようにすることが求められています。

学校教育のはじまりは幼児教育です。

幼児教育は、幼児期にふさわしい生活を通して、創造的な思考や主体的な生活態度の基礎など、生涯にわたる人格形成や学習の基礎を培っています。幼児期の興味や関心に基づいた多様な体験が小学校以降の学習や生活の基盤となり、ひいては言語能力、情報活用能力、問題発見・解決能力等の持続可能な社会の創り手として必要な力の育成等につながっていきます。

しかしながら、幼児教育と小学校教育では教育内容や指導方法に違いがあり、円滑な接続が容易ではない現状があります。本来子どもの発達は、一人一人違うペースで、絶えることのない連続性の中で進んでいくため、幼児教育施設から小学校に移行していく中で、子どもが突然違った存在になるわけではありません。「こどもまんなか」の発想に立ち返れば、年齢や学年の事情で引かれた線が、子どもの育ちの大きな切れ目にならないようにしていくことが大切です。

とりわけ、義務教育の開始前後の5歳児から小学校1年生の2年間の「架け橋期」は、子どもが幼児教育施設における遊びを通じた学びや成長を基礎として、小学校において主体的に自己を発揮しながら学びに向かうことを可能にするための重要な時期です。「架け橋期」は、幼保小が意識的に協働して子どもの発達や学びをつなぐことにより、生涯にわたる学びや生活の基盤をつくることが重要です。

幼児教育と小学校教育との円滑な接続に向けて、幼保小の架け橋プログラムの調査研究を行った指定地域（えりも町、佐呂間町）では、子どもたちの遊びや学びが、「嬉しい」「楽しい」「安心」でいっぱいになり、子どもたちの「やりたい」があふれ、自分たちで考え、友達と協力しながら自ら行動する場面がたくさん見られるようになったという大きな成果がありました。

幼保小の架け橋プログラムは、幼児教育と小学校教育を円滑に接続することで、子どもたちの「やりたい」「楽しい」を第一にしながら、主体的・対話的で深い学びの実現を図り、一人一人の多様性に配慮した上で全ての子どもに学びや生活の基盤を育むことを目指す取組です。

そして、子どもたちが生き生きと学ぶ姿に、大人も教育及び保育の楽しさを感じ、新たな教育・保育活動へチャレンジする意欲が高まっていく取組でもあります。

北海道版幼児教育スタートプログラムは、指定地域の調査研究結果等を踏まえ、本道の全ての地域の子どもたちが、架け橋期の教育の充実により、幼児教育施設でも小学校でも楽しく学び続けることができるようお願いを込めて、策定いたしました。

各自治体、各幼児教育施設及び各小学校等におかれましては、幼保小の架け橋プログラムの趣旨等について御理解をいただき、家庭、地域及び関係機関等とも連携し、本プログラムを活用いただくなどして、架け橋期の教育の充実に向けて、できる取組から推進していただきますようお願いいたします。

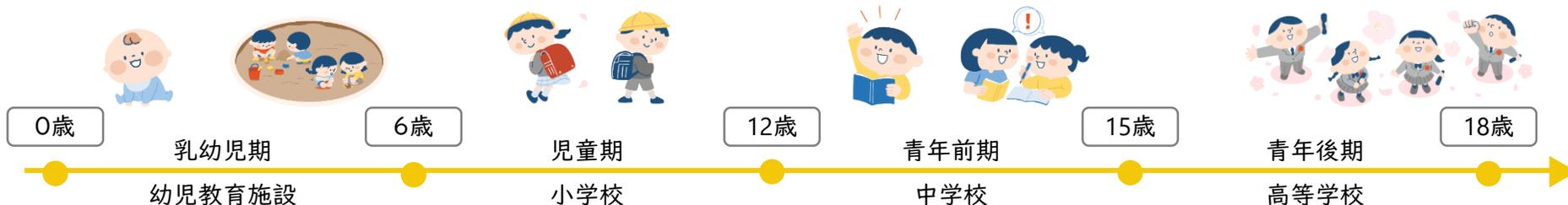
※VUCAとは、「Volatility:変動性」、「Uncertainty:不確実性」、「Complexity:複雑性」、「Ambiguity:曖昧性」の4つの単語の頭文字をとった造語です。

# 01 幼児期及び架け橋期の教育の重要性



先生  
あのね

私たちの資質・能力や学びは、0歳からずっとつながっていくんです

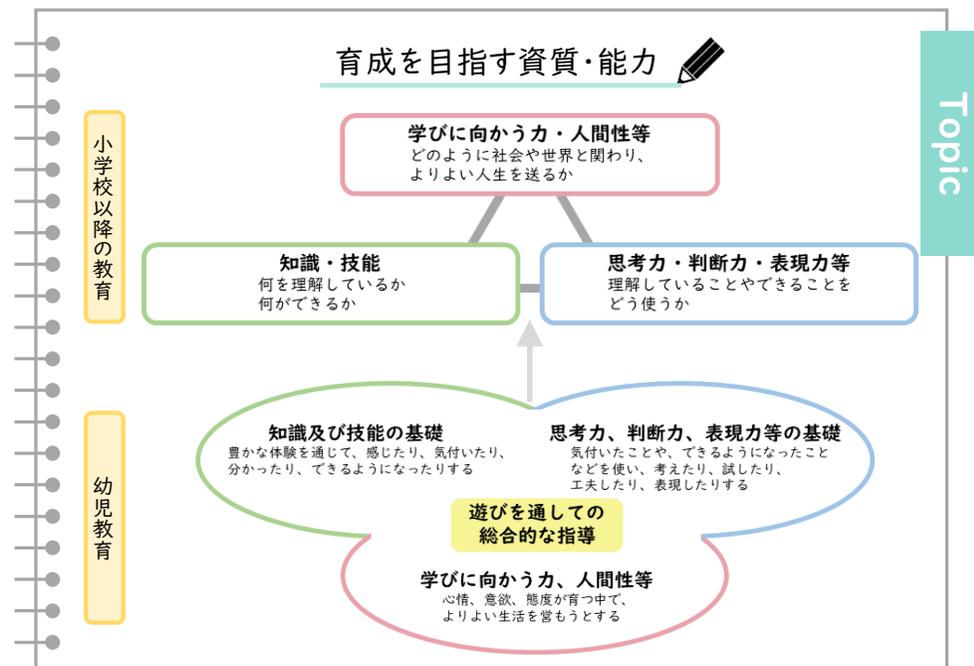


一人一人の子どもの成長に目を向けると、誕生前後、就園前後、小学校就学前後と、いくつか大きな節目はありますが、子どもの発達は、一人一人違うペースで、絶えることのない連続性の中で進んでいきます。

育成を目指す資質・能力については、幼児教育から高等学校教育までを通じて系統的に示されています。

子どもの資質・能力や学びの連続性・一貫性を確保しながら、組織的・体系的に教育を行うことが重要です。

発達の段階に応じて、学びの場や学び方は変わりますが、一人一人の成長は、ずっとつながっています。私たちが、どんな学びをしてきたのか、これからどんな学びをしていくのかを知ってほしいです。



# 01 幼児期及び架け橋期の教育の重要性



先生でもね

学びの場が変わると、育まれた資質・能力が繋がらないことがあるんです



幼児教育と小学校教育には、他の学校段階等間の接続に比べて、指導方法など様々な違いがあります。違いを認識しながら、幼児教育と小学校教育を円滑に接続していくことが重要です。

幼児教育施設での学びが生かされずに、小学校がゼロからのスタートになってしまうと、小学校での学習が退屈でつまらないものを感じてしまうこともあるんです。

幼児教育施設と小学校での学びや生活の違いが大きいと、不安や戸惑いを感じて、自分らしさや自分のもっている力を発揮することができなくなってしまうこともあるんです。



## 「幼児教育」と「小学校以降の教育」の特徴



幼児教育

感じる、気付く、考える、工夫する、興味をもつ、関わる等

経験を重視

遊びを通した総合的な指導



小学校以降の教育

できるようになる、分かるようになる等

目標への到達度を重視

各教科等の目標・内容に沿って選択された教材による指導

Topic

# 01 幼児期及び架け橋期の教育の重要性



先生  
あのね

園と小学校の学びが繋がると、自分の力をもっともっと発揮できるんです

## 幼児教育施設での遊びを通した学び



これは  
なんだろう？

不思議を見つけて

たくさんの  
きのこが木に  
ついてる！



気付いて



木の棒を  
つなげたいなあ

考えて、工夫して

幼児期の遊びを通して育まれた資質・能力が  
小学校の学びへとつながっていくと、主体的・  
対話的で深い学びの実現が図られます。

## 小学校での各教科等における学び



木の实を使って  
おもちゃを  
作ったらどうかな

自分たちの思いを  
実現して



経験を基に考えて、  
工夫して



点数を決めて  
やったら楽しそう

みんなでアイデアを  
出し合って

木の实を  
使ってゲームが  
できないかな

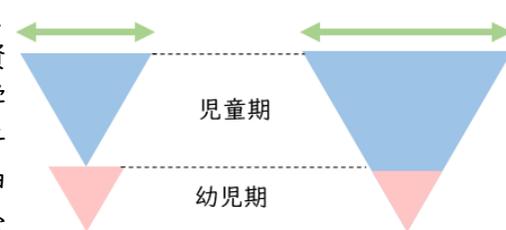
園では、遊びを通してたくさんの“学びの芽生え”を育んでいるんだよ。

学びの芽が小学校で生かされると、これまでの体験や経験を基に、考えたり、工夫したり、みんなで話し合ったりしながら、自分たちの力で、どんどん学びが深まっていくから、とっても楽しいよ！

園で育まれた資質・能力が、どのように小学校の学びへとつながっていくかを考えてもらえると嬉しいです。



小学校をゼロからのスタートとした学びと、幼児期に育まれた資質・能力を生かした学びとでは、その後の子どもの資質・能力の伸びや広がり大きな差が生まれます。



Topic

# 01 幼児期及び架け橋期の教育の重要性



先生  
あのね

幼児期に育まれた好奇心や探究心などが、学びの原動力になっていきます

好奇心や探究心、想像力、やり抜く力、自尊心などの社会情動的スキルやいわゆる非認知能力は、生涯にわたる学びを支えていく重要なものであり、いわゆる非認知能力と認知能力は相互に関連し、支え合って育っていくとされています。

社会情動的スキルやいわゆる非認知能力は、特に幼児期に顕著な発達が見られ、学童期から思春期、青年期を経て育まれていきます。

幼児教育では、遊びや生活の中でどのように心情、意欲、態度を育てているのか、小学校教育では、各教科等の中でどのように手立て等を工夫し学習意欲を向上させているのか、また、そのときの先生の関わりなどについて、互いに理解し合い、そのよさに学ぶことがそれぞれの教育の充実へとつながり、子どもの学びに向かう力を育てていきます。

園と小学校の先生は、いつも私たちの「やってみよう!」「難しいけどできるかな?」「できた!」という気持ちを大事にしてくれるから、新たな遊びや学びへの意欲が高まって、チャレンジしたり、やり抜いたりすることができるんだよ。



幼児教育は、「後伸びする力」を培うことを重視しています。「ワークでひらがなを練習する」「フラッシュカードで英単語を覚える」など、自分の生活を離れて知識や技能を一方向的に教えられて身に付けていく時期ではないんです。

幼児期にふさわしい教育を通して育まれた心情、意欲、態度が、私たちの生涯にわたる学びや生活の基盤となっていきます。



## 幼児教育の重要性

1960年代のアメリカのミシガン州で、低所得者層のアフリカ系アメリカ人の3、4歳児の子どもを対象に、その後長年にわたり追跡調査を行った「ペリー就学前計画」によると、質の高い幼児教育を受けた子どもは、「学校のよい成績」「高い収入」などにつながっているという研究結果が報告されています。

また、調査を実施したジェームズ・ヘックマン シカゴ大学教授は、社会的成功には、IQや学力といった認知能力だけでなく、根気強さ、注意深さ、意欲、自信といったいわゆる非認知能力も不可欠であり、幼少期の教育により、認知能力だけでなく、いわゆる非認知能力も向上させることができると指摘しています。

## 02 幼保小の架け橋プログラム



先生!

「幼保小の架け橋プログラム」を知っていますか?

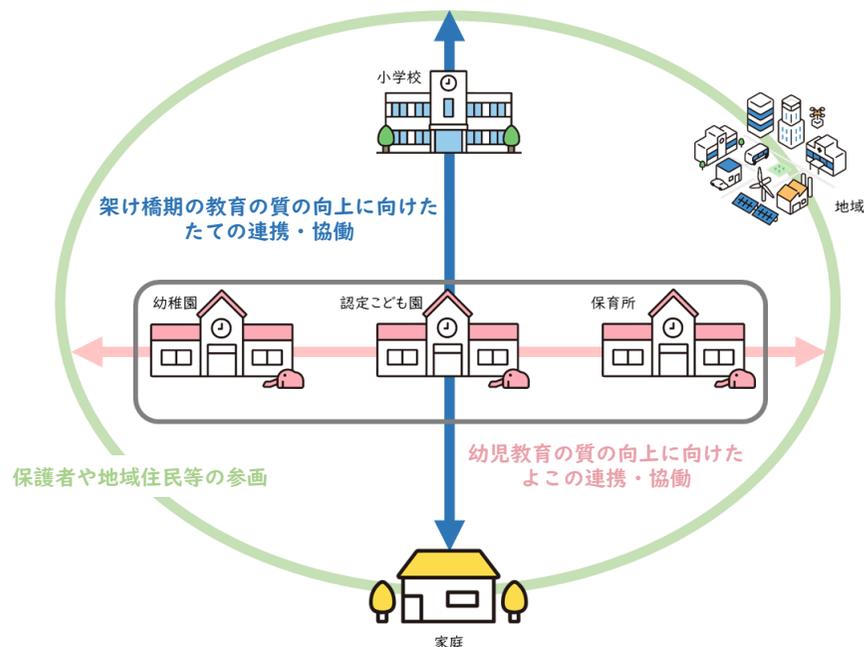
幼保小の架け橋プログラムとは、幼児教育で育まれた“学びの芽生え”を小学校教育の“自覚的な学び”へとつなげていくための手立てです。

特に、5歳児と小学校1年生の2年間で「架け橋期」として焦点を当て、この時期の教育の充実に向けて、子どもの成長を中心に据え、子どもを取り巻く全ての関係者が連携・協働し、取り組んでいくものです。

幼児教育施設と小学校においては、誰一人取り残すことなく、全ての子どもに格差なく質の高い学びや生活の基盤を育むことが求められています。

そのためには、生涯にわたる人格形成の基礎を培う幼児教育と架け橋期の教育の質の向上を図ることが重要です。

小学校には、施設類型を問わず、様々な幼児教育施設から子どもが入学します。全ての子どもに格差なく学びや生活の基盤を育むためには、地域全体で幼児期及び架け橋期の教育の質の向上について考えていくことが大切です。



小学校という新たな環境の中で、進んで自分らしさを発揮して、自分のもっている力を働かせるためには、どの園に通っていても、幼児教育で育みたい資質・能力が育まれていることが大切なんです。

そして、小学校でも、幼児教育の学びと育ちを土台として、私たちが興味・関心をもったことを一人一人のペースで追究していけるような、ゆったりとした時間の流れの中で、少しずつ小学校での学習に慣れていけると嬉しいです。



# 02 幼保小の架け橋プログラム



先生!

## 幼保小の架け橋プログラムで変わった私たちの学びの姿を見てください

### 幼児教育施設での学びの姿の変容



一人一人が  
やりたい遊びに夢中!

主体的な遊びができる環境が整えられ、子ども一人一人が、保育室のあちこちで、自分のやりたい遊びに夢中になっている姿が見られるようになりました。遊びの中で、感じたり、気付いたり、友達と協力したりするなど、様々な学びの芽が育まれています。

### 小学校での学びの姿の変容



主体性を存分に発揮!

子どもの幼児期の経験や思い・願いを生かした授業が展開されるようになり、疑問について自ら調べたり、友達と協力して創造したりするなど、主体的に自己を発揮する姿が見られるようになりました。自己肯定感の高まりも見られています。

### これまでの課題

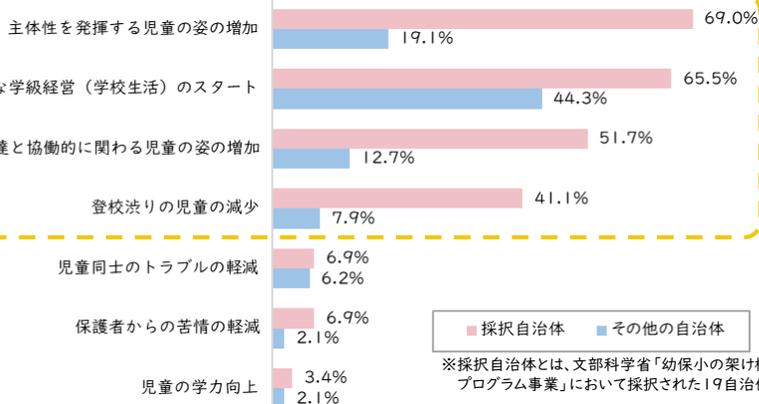
幼児教育施設

- 一部の幼児教育施設においては、幼児の興味・関心ではなく、幼児の発達にふさわしくない教育活動が行われている。
- 一部の幼児教育施設においては、いわゆる早期教育や小学校教育の前倒しのような教育活動が行われている。

小学校

- 「みんなと同じことができる」「言われたことを言われたとおりにできる」ことを求め、「正解(知識)の暗記」の比重が大きい教育活動が行われている。
- 「みんなと同じことを、同じようにする」ことが求められ、「同調圧力」を感じる子どもが増えている。

### 幼保小の架け橋プログラムの成果



幼保小の架け橋プログラムのモデル地域における成果に係る調査研究(令和6年7月現在速報値)

Topic

## 02 幼保小の架け橋プログラム



### 子どものために始めてみませんか？ 幼保小の架け橋プログラム！

幼保小の架け橋プログラムで取り組むことは、大きく2つ。それは、「実施に必要な体制づくり」と「架け橋期のカリキュラムの作成」です。

地域の子どもの幼児期及び架け橋期の教育の充実を図るためには、まず関係者同士が“つながる”ための体制づくりが必要です。

そして、「期待する子ども像」「育みたい資質・能力」「学びの連続性に配慮した教育内容や指導方法の工夫」などについて話し合い、その内容を「架け橋期のカリキュラム」としてまとめ、各幼児教育施設・小学校で取組を進めていきます。

幼保小の架け橋プログラムで大事なことは、幼児教育施設と小学校の先生が、互いの教育について“知る”ことです。

なぜなら、幼児教育施設は、小学校以降の教育を見通しながらその基盤となる資質・能力を育むこと、小学校は、幼児教育施設で育まれた資質・能力を踏まえて、教育活動を実施することが必要だからです。



### Q & A



幼保小の架け橋プログラムに取り組みたいと思っても、他の幼児教育施設や小学校との交流がない場合はどうすればよいですか？

幼保小の架け橋プログラムのゴールは、幼児期及び架け橋期の教育の充実に向けて、各幼児教育施設・小学校の教育活動の改善・充実を図ることです。交流の機会がなくても、自園・自校において、資質・能力や学びの連続性に配慮しながら、教育課程等を見直すことから始めることも大事な取組です。



他の幼児教育施設や小学校との交流をスタートさせたい場合はどうすればよいですか？

まず、他の幼児教育施設や小学校と、つながりをつくることから始めましょう。

保育・授業参観の周知や園・学校だよりの配布など、自分たちの幼児教育施設・小学校を知ってもらうことから始めるのも1つの方法です。

また、幼児教育施設は、様々な地域から子どもが通園しているため、就学先のすべての小学校とつながることは難しい現状があります。その場合は、幼児教育施設の所在地の小学校区にある幼児教育施設や小学校と交流を始めることが考えられます。



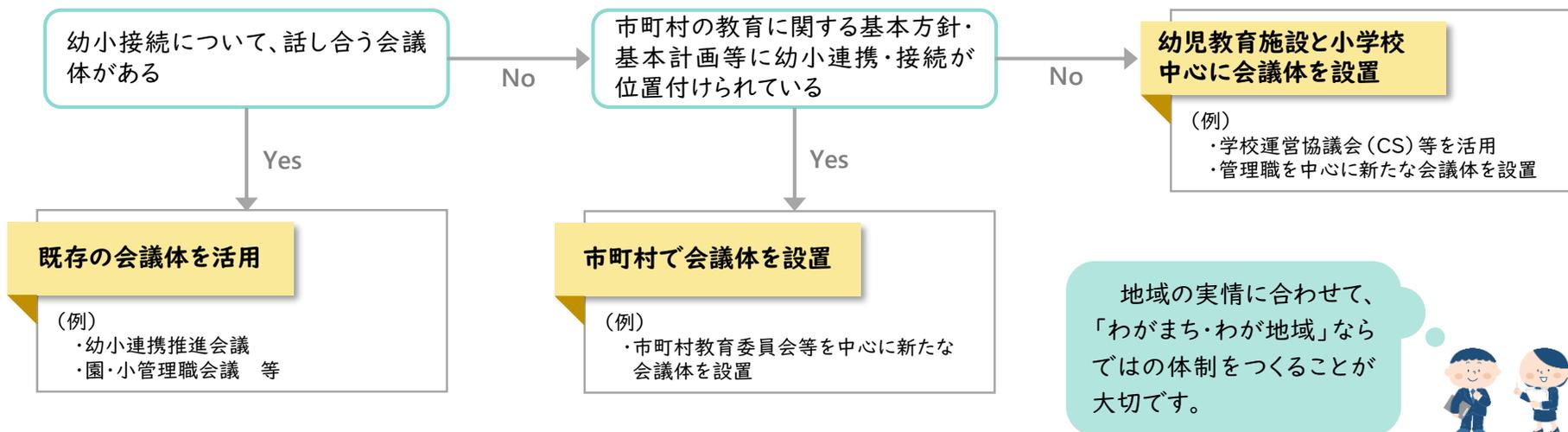
# 03 幼保小の架け橋プログラムの体制づくり



人と学びの“つながり”が、子どもの学びの質を高めます

## 幼保小の架け橋プログラムの実施に必要な体制づくり

※体制づくりについてはあくまでも一例にすぎないため、この限りではありません。



体制づくり

幼児教育の現場においては、私立が多く、幼稚園、保育所、認定こども園といった複数の施設類型があります。幼児期及び架け橋期の教育の充実に向けた取組を一体的に推進するためには、設置者や施設類型を問わず、関係者が連携・協働するための体制づくりをすることが求められています。

幼保小の架け橋プログラムを始めるに当たって、そのための体制を必ずしも一から構築しなければならないということではありません。例えば、既存の会議体を活用し、小学校区にある私立の幼児教育施設も構成員として位置付け、取組を進めることも考えられます。

各地域におけるこれまでの取組を最大限生かし、負担軽減を図りながら進めていくことが大切です。

# 03 幼保小の架け橋プログラムの体制づくり



## 推進協議会※1で地域の子どもの学びを考えていきましょう

### 準備期

#### 構成員の選定

- ・推進協議会※1の構成員の選定

#### 【例】

- ・幼児教育施設、小学校（管理職）
- ・教育委員会、子育て担当部局
- ・保護者や地域の関係者
- ・幼児教育施設と小学校の関係団体
- ・有識者
- ・架け橋期のコーディネーター 等

### 充実期

#### 架け橋期のカリキュラムに基づく取組の実施状況の把握・検証

- ・アンケート調査やヒアリング
- ・保育、授業、幼小の合同研修会、園内研修・校内研修等の参観
- ・上記2つの結果の分析、成果と課題の把握 等

架け橋期のカリキュラムの開発・実施に当たっては、複数の園・校が関わり、設置者・施設類型が異なる場合も多いことから、学校教育の専門的知見を有する教育委員会が推進協議会を設置するなど、主導的な役割を發揮し、地域一体となって幼児期及び架け橋期の教育の充実に取り組んでいくことが求められています。



### スタート期

#### 目指す方向性の共有

- ・様々な立場から意見や事例を出し合い、目指す方向性の共有 等

#### 地域の実態の把握

- ・園内・校内の幼小連携の体制整備状況
- ・各幼児教育施設と小学校における幼小連携・接続の取組状況、成果と課題
- ・市町村や地域におけるこれまでの取組の成果と課題 等

#### 架け橋期のカリキュラムの方針の検討・決定

- ・架け橋期のカリキュラムにおける“共通の視点”の検討
- ・架け橋期のカリキュラムにおけるスタートカリキュラムやアプローチカリキュラム※2の位置付けの明確化 等

### 発展期

#### 方針の改善・発展

- ・子どもや幼児教育施設・小学校の実態を把握し、実態に応じた方針の改善と具体的な対策の改善 等

※1 本プログラムにおいては、幼児期及び架け橋期の教育の充実に向けて、関係者が連携・協働し、架け橋期のカリキュラムを開発するための会議体を「推進協議会」と称しています。

※2 「アプローチカリキュラム」とは、文部科学省として正式に使用している用語ではありませんが、小学校以降の教育との接続を確かなものとするために、各自治体において進められている取組の一つです。

# 03 幼保小の架け橋プログラムの体制づくり



## 幼小合同会議で、幼児教育施設と小学校の学び合いを深めていきましょう

### 準備期

・構成員と所掌内容の決定

#### 【構成員例】

- ・幼小連携担当
- ・5歳児と小学校1年生の担任
- ・架け橋期のコーディネーター 等

#### 【所掌例】

- ・架け橋期のカリキュラム
- ・幼小合同研修会
- ・子どもの交流活動 等

### 充実期

・相互理解を深めるための具体的な内容や方法に関する協議 等

#### 【協議例】

- ・保育・授業参観後の意見交換の視点
- ・相互の指導の内容や方法を生かした教育課程や指導計画の改善・充実 等

幼児期及び架け橋期の教育の充実に向けて、継続的なPDCAサイクルを構築していくためには、幼小接続担当を園務・校務分掌に位置付け、オンラインも適宜活用しながら幼小合同会議等を定期的で開催するなど、幼小の対話を継続するための工夫が必要です。



### スタート期

- ・課題に関する協議
- ・子どもの変容や自園・自校の先生の意識の変容等の共有 等

#### 【合同会議を踏まえた園内・校内の体制整備】

- ・様々な委員会等との関係の明確化
- ・幼小合同会議の開催日程の共有
- ・すべての先生の理解と協力を得るための園内・校内研修等の実施
- ・個人に依存しない持続的な体制づくり 等

### 発展期

- ・子どもの実態を踏まえた架け橋期のカリキュラムとするための継続的な定期開催
- ・中・長期的な展望について協議
- ・初期の目的の定期的な確認 等

幼小合同会議では、参加者が互いに尊重し合いながら、子どもの学びや生活の基盤を培う重要な時期を担う仲間として学び合えるような関係を築き、率直に語り合うことが大切です。



# 03 幼保小の架け橋プログラムの体制づくり



## 園内・校内の基盤づくりが持続可能な取組へとつながります

### 幼保小の架け橋プログラムの実施に必要な園内・校内の基盤づくり



#### 園長・校長の連携とリーダーシップ

- ・幼児教育施設と小学校が連携・協働するためには、園長・校長の連携とリーダーシップが重要です。
- ・幼児教育施設と小学校の先生が顔を合わせる機会をつくるなど、気軽に話し合える雰囲気を醸成していきます。



#### 自園・自校の先生への意識啓発と参画

- ・園内・校内研修等において、すべての先生で幼保小の架け橋プログラムに取り組む意義やねらいを共有します。
- ・先生方が保育参観や授業参観などへ行くことができる体制を整えます。



#### 連携窓口の明確化

- ・園務・校務分掌に幼小接続担当の先生を位置付けるなど、窓口の一元化を図ります。



#### 委員会等とワーキンググループの関係の明確化

- ・園内・校内にある様々な委員会等と幼小合同会議との関係を明確化し、すべての先生で幼小合同会議の位置付けを共有します。

幼保小の架け橋プログラムを進める上で気を付けなければいけないことは、一部の先生や一時期の取組にならないようにすること、架け橋期のカリキュラムを作成することが目的にならないようにすることです。

そのためには、園内・校内のすべての先生で幼保小の架け橋プログラムに取り組む意義やねらいを共有し、園内・校内の体制を整えることが大切です。

担当の先生の負担が大きくなるようにするためには、園内・校内の協働体制が大切です。





## 架け橋期のカリキュラム作成の前に、互いの教育を理解することが大切です

### 相互理解を深めるために



### 子どもの姿をもとに語り合しましょう

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿等を手掛かりとして、具体的な子どもの姿から、教育内容や資質・能力のつながり、先生の関わり方などについて話し合い、互いの教育について理解を深めていくことが大切です。

その他にも・・・

#### 用語について話し合う

普段何気なく使っている「指導」「体験」等の用語も、幼児教育と小学校教育では、捉え方が違うことがあります。捉え方の違いは文化の違いです。用語の捉え方を共有することも、協働しながら架け橋期のカリキュラムを作成する上で大切です。

#### 教科書や要領・指針を読む

例えば、生活科の教科書を読むと、子どもの学びのつながりや低学年教育の特徴がよく分かります。また、3要領・指針解説に記載されている「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の具体的な子どもの姿や指導の工夫などから幼児教育について理解を深めることができます。教科書や要領・指針から学ぶことも1つの方法です。

#### 保育・授業体験をする

保育・授業体験を通して幼児や児童の特性を理解したり、子どもへの先生の関わり方を学んだりすることができます。また、保育・授業体験で学んだ子どもへの関わり方や指導方法等は、自園・自校の指導に生かすこともできます。

保育・授業参観をする際は、参観の視点を事前に共有しておくことが大切です。

#### 【例】

- ・保育・授業参観
- ・ドキュメンテーション
- ・事例検討
- ・動画視聴 等

道教委幼児教育推進センターでは、幼児期の子どもの遊びの様子を撮影した動画（園内研修用オンデマンド教材）や事例（園内研修教材「あるある研修」）を配信しています。「幼児期の遊びを通した学びについて理解を深めたいけれど、保育参観に行く機会がない」「幼小合同研修会で事例を通して学びたい」といった際には、ぜひご活用ください。

オンデマンド教材視聴申込み先  
<https://www.dokyoj.pref.hokkaido.lg.jp/hk/gky/ondemandkensyu.html>



あるある研修掲載先  
<https://www.dokyoj.pref.hokkaido.lg.jp/hk/gky/aruaru.html>



Topic

架け橋期のカリキュラムの作成

架け橋期のカリキュラムを実効性の高いものにするためには、幼児教育施設と小学校の先生が、互いの教育について理解し尊重し合いながら、協働して作成することが大切です。

幼児教育施設と小学校の先生が一同に会して合同研修を実施することが難しい場合でも、ICT等を活用したり、短時間で園内研修・校内研修を実施したりするなど、幼児教育施設・小学校の実態に応じた取組を工夫しながら、互いの教育について理解を深めていくことが子どもの学びの充実へとつながっていきます。

互いの教育について、“見る”“知る”から始めることが大切です。



# 04 架け橋期のカリキュラム開発



## 幼児教育と小学校教育をつなぐ“共通の視点”を検討しましょう

架け橋期のカリキュラムは、幼児教育施設と小学校が、幼児期及び架け橋期の教育の充実に向けて、自園・自校の教育課程や指導計画等を具体化できるよう作成するものです。

推進協議会において、どのような共通の視点があれば、教育内容や教育方法の改善・充実につながるかという観点から検討しましょう。

### 共通の視点として考えられる項目例

- 01 ・架け橋期を通してどのような子どもを育みたいか。  
・どのような子どもに育ってほしいか。
- 02 ・期待する子ども像の育成に向けて、遊びや学びでどのようなプロセスを大切にしていくか。
- 03 ・遊びや学びを深めるために、どのような先生の関わりを大切にしていくか。

	5歳児	第1学年
月	4 . . . 3	4 . . . 3
01 期待する子ども像		
02 遊びや学びのプロセス		
03 先生の関わり		
04 環境づくり		
05 子どもの交流		
06 家庭や地域との連携		

共通の視点として  
考えられる項目例

【架け橋期のカリキュラム(例)】

- 04 ・遊びや学びを深めるために、どのように環境づくりを工夫していくか。
- 05 ・子ども同士の交流を通して、どのような資質・能力を育みたいか。  
・幼児教育施設と小学校の年間の活動に、子ども同士の交流をどのように位置付けるか。
- 06 ・期待する子ども像について家庭や地域と共有し、どのように協働していくのか。



## “期待する子ども像”を検討していきましょう

### 01 期待する子ども像を設定する。

- 幼児教育施設と小学校の子どもの実態を交流した上で、地域の子どもによさや課題を明らかにし、共有することが大切です。
- 「期待する子ども像」は、右記の様々な観点を踏まえて設定します。
- 市町村や学校運営協議会で設定した「目指す子ども像」を架け橋期のカリキュラムの「期待する子ども像」に位置付けている地域もあります。

子どものよさや課題は？

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりに子どもの育ちを捉えてみると？

市町村の方針・基本計画で示されている目指す子ども像は？

3要領・指針や学習指導要領で育みたい子どもの姿とは？

各幼児教育施設・小学校の保育・教育目標は？

保護者や地域の願いは？



各幼児教育施設と小学校においては、架け橋期のカリキュラムをもとに教育課程編成・指導計画作成を行い、幼児期及び架け橋期の教育の充実に向けた教育活動を行います。

架け橋期のカリキュラムが曖昧で具体性に乏しいと、幼児教育施設と小学校で共通性をもって取組を進めることが難しくなります。一方、細部まで決まっていると、それぞれの幼児教育施設と小学校のよさや特色が反映しにくくなります。

地域の実態等に応じたバランスを取りながら柔軟に進めることが大切です。



## “遊びや学びのプロセス”を検討していきましょう

### 02 学びのつながりから、遊びや学びで大切にしたいプロセスを整理する。

- 幼児教育施設では、遊びを通してどのように資質・能力を育てているか、小学校では各教科等の特質に応じた学習過程を踏まえてどのように資質・能力を育てているかを相互理解し、互いのよさに学びながら、期待する子ども像の育成に向けて、架け橋期の子どもの学びをより深めていくための工夫について話し合しましょう。

具体的な事例を基に話し合うと、遊びや学びのプロセスや育まれる資質・能力が分かりやすくなります。



#### 【話合いの例】

##### 期待する子ども像

- チャレンジで夢を叶える子ども
- ふるさとを誇り、自ら動く子ども
- 個性や違いを力にかえる子ども

※3つの期待する子ども像のうち、「チャレンジで夢を叶える子ども」について例示しています。

「自分もこまをうまく回したい」と思っても、始めはうまくいかないことがあります。幼児教育では、諦めずに繰り返し挑戦して達成感を味わうことを大切にしています。保育者は、「お友達にうまく回すやり方を聞いてみたら？」と気付きが得られるように促したり、頑張りを認めたりすることを大切にしながら、心情・意欲・態度を育てていきます。



生活科では、子どもが身近な人々、社会及び自然と直接関わる活動や体験を重視し、子どもが自分の思いや願いを生かし、主体的に活動することができるようにしています。そして、活動の楽しさや満足感、成就感を実感できるようにすることを大切にしています。

「子どもの思いや願いを出発点にする」「遊びや体験を通して学ぶ」「楽しさや満足感、成就感を味わわせる」など、共通する遊びや学びのプロセスは大切にしていきたいですね。



## “先生の関わり”を検討していきましょう

### 03 遊びや学びを深めるための先生の関わりを整理する。

- 幼児教育も小学校教育も、遊びや学びの中で、「主体的・対話的で深い学び※3」の実現を図っていく点は共通です。また、「子ども同士の考えをつなぎ、子どもと共に創造する」「多様な子ども一人一人の可能性や活躍の場を引き出す集団づくりをする」といった視点も共通しています。
- 期待する子ども像に向けて、遊びや学びを深め、それぞれの発達に即した資質・能力を育てていくために必要な先生の関わりについて話し合しましょう。

#### 【話し合いの例】

幼児にとって心を動かされる体験は、次の活動への動機付けになったり、新たな活動の中に生きてくることもあります。一見すると同じような活動であっても、必ずしも全員が同じ体験をしているとは限らないので、一人一人の体験に目を向けることを大切にしています。

言語化されていない諸感覚を通して感じ取ったことも含めて、幼児が体験から何を学んだのかを理解することを大切にしています。保育者が学びを読み取り、幼児がその学びを更に深めたり、発展させたりすることができるように、環境を再構成することも大切にしています。



生活科では、体験したことを過去の体験とつなげるために、たとえる学習活動を行うのですね。これは、幼児教育施設でも効果がありそうです。

保育参観・授業参観を行い、それぞれの先生の関わりを実際に見てみると、共通点や相違点、学びをつなぐために大切な関わりが明らかになります。互いのよさに学ぶことがたくさんありますよ。



※3 保育所保育指針においては、「主体的・対話的で深い学び」という用語は使われていませんが、「子どもの主体的な活動や子ども相互の関わりを大切にすること」「子どもが経験で得た様々な資質・能力が十分に発揮されるようにすること」等、同様の内容が示されています。

生活科で学ぶ児童の姿は様々です。多様な児童の発言やしぐさを丁寧に見取り、指導に生かすことを大切にしています。そのためには、児童が感じ取った事柄を、教師が尋ね返したり問いかけたり共感したりするなどの言葉かけや働きかけをして、児童の発言やしぐさの背景を深く理解するようにしています。

児童は、表現することで自らの活動や対象を見つめ直したり、過去のことや周りのことと比べたりして気付きの質を高めていきます。中でも、言葉などによる表現と関わりが深いのは、たとえる学習活動なので、「ぶどうみたいな実を見つけたよ」などと、体験したことをこれまでの体験につなげて表現することを大切にしています。

# 04 架け橋期のカリキュラム開発



“環境づくり”を検討していきましょう。

## 04 遊びや学びを深めるための環境づくりを整理する。

- 子どもが遊びや学びを深めるためには、子どもが安心して学べる環境を整えることが重要です。
- 幼児教育施設では、幼児が先生に支えられながら自分の力で生活をつくっていくことができるように環境を工夫しています。小学校に入学した児童の戸惑いや不安を軽減するという視点から、小学校でも児童が自分の力で学校生活を送ることができるようにするための環境づくりの工夫について話し合しましょう。

幼児教育は、「環境を通して行う教育」を基本としています。先生は、環境が幼児の発達を促すものとなるよう、必要な遊具や用具、素材、十分に活動するための時間や空間などの環境を構成しています。近隣の幼児教育施設を見学するなどして、環境づくりについて学んでみましょう。



### 【話し合いの例】

幼児教育施設と小学校では、トイレや水飲み場の高さや大きさが全然違いますね。戸惑いを感じる子どもがいるのでは？

幼児教育施設では、子どもが興味・関心をもっていることを先生がよく捉えて、関連した絵本や図鑑を置き、そこから子どもが遊びが広がる様子が見られましたね。小学校でも、学習に活用できる資料を常設してみたらどうだろう？



教室や空き教室に、子どもが幼児教育施設で慣れ親しんだ折り紙や空き箱制作をできる空間を作ると、安心できるのでは？

幼児教育施設では、床に座って、先生も子どもと同じ目線で、子ども同士も互いの顔が見えるように円になって話し合いをしています。小学校でも、同じ形態で話し合いをすると、子どもたちが安心感をもって話すことができるのでは？

## 04 架け橋期のカリキュラム開発



“子どもの交流”“家庭や地域との連携・協働”を検討していきましょう。

### 05 子どもの交流を通じた学びについて考えましょう。

- 5歳児が小学校就学に向けて自信や期待を高めて、極端な不安を感じないよう、就学前の幼児が小学校の活動に参加するなどの交流活動は意義のある活動です。
- 交流活動が「活動あって学びなし」とならないよう、5歳児と小学校1年生双方に交流のねらいを設定することが大切です。そして、ねらいを踏まえて交流する対象の年齢・学年、交流時期を検討しましょう。

例えば、5歳児は小学校入学を意識すること、小学校1年生は自身の成長を感じることをねらいとするならば、5歳児と小学校1年生の交流活動を秋に設定するなど、ねらいと対象の年齢・学年、交流時期との関連を図り、年間の活動に位置付けることが大切です。



### 06 期待する子ども像の家庭や地域との共有や家庭との連携・協働について考えましょう。

- 期待する子ども像の育成に向けては、幼児教育施設や小学校、家庭、地域がそれぞれの有する教育機能や役割を互いに発揮し、支え合いながら、一体となって子どもを育てていく必要があります。期待する子ども像をどのように家庭や地域と共有するか、家庭や地域にお願いしたい取組は何かを話し合しましょう。
- また、架け橋期は、自分の世界が広がり、関わる人や活動範囲も地域へと広がっていく時期です。子どもの発達に伴い、家庭や地域との関わり方も変わっていくことを踏まえ、幼児教育と小学校教育がつながることの意義を共有して、家庭や地域との連携協働について考えていくことが大切です。

例えば、幼児教育施設と小学校では、1日の生活リズムが異なることを踏まえ、幼児教育施設と家庭が連携することで、小学校生活を見据えながら、生活習慣を養う取組などが考えられます。





架け橋期のカリキュラムを作成したら、実施・検証・改善です

## 幼児期及び架け橋期の教育の充実に に向けた継続的なPDCAサイクルの構築



### 架け橋期のカリキュラム の作成

共通の視点をもとに、架け橋期のカリキュラムを作成する。

架け橋期のカリキュラムを作成した後は、その実効性を高めていくため、子どもの姿等を共に振り返り、幼児期及び架け橋期の教育の改善・充実につなげていくことが重要です。



### 教育課程編成・ 指導計画作成

架け橋期のカリキュラムをもとに、各幼児教育施設・小学校の教育課程の編成・指導計画の作成をするとともに、スタートカリキュラムの位置付けの再確認し、内容の改善を図る。

22～23ページ参照



### 教育活動の実施

幼児教育施設では、小学校以降の教育を見通した教育活動、小学校では幼児期に育まれた資質・能力を踏まえた教育活動を実施する。

22～24ページ参照



### 検証・改善

共通の視点が保育や授業の場面でどのような指導上の配慮となって表れているのか、先生の指導の変容や子どもの変容等について意見交換し、架け橋期のカリキュラムの改善・充実を図る。

25ページ参照

# 05 架け橋期のカリキュラムの実施・検証・改善



幼児教育  
施設編

## 架け橋期のカリキュラムを踏まえた園・小学校の実践を紹介します

### エピソード 01 教育課程・全体的な計画を見直し・改善

架け橋期のカリキュラムの開発を通して、幼児教育で生きる力の基礎を育むことの重要性を改めて認識し、架け橋期のカリキュラムを基に、教育課程・全体的な計画の目標と内容を育みたい資質・能力の観点から教育課程・全体的な計画を改善しました。

先生の指導が変わった

5領域のねらい及び内容を通して育みたい資質・能力を捉え直すことにつながりました。また、5歳児クラスの担任以外の先生も、小学校教育を見通しながら、それぞれの時期の子どもに必要な発達を促す活動を考えるようになりました。

### エピソード 03 他園の実践を参考に保育を改善

架け橋期のカリキュラムで「友達の中で自分の考えを伝え、相手の話をよく聞こうとする子ども」を育むことが重点となっていたので、幼小合同研修会で知った他園の実践を参考に、朝の会でサークルタイムを行うことにしました。

子どもが変わった

サークルタイムで先生が子どもが伝えたい思いを汲み取りながら、友達に伝わるように仲立ちをしたことで、なかなか自分の意見を伝えることができなかった子どもが少しずつ話せるようになったり、友達の思いや願いに気付くことができるようになりました。

### エピソード 02 0歳からの学びをつなぐ意識を啓発

架け橋期のカリキュラムから、0歳児から5歳児までの育ちをつなぐことも大事だと考えた施設長は、主に3歳以上児担当の先生が幼小合同研修会等に参加できる体制を整え、参加した感想等を職員会議で発表し、全職員に共有する機会を位置付けました。

先生の意識が変わった

幼小合同研修会等に参加したり、架け橋プログラムの取組を知ることによって、5歳児担任以外の先生も、小学校を身近に感じる機会となり、幼児教育が小学校以降の生活や学習の基盤を育てているという意識の高まりが見られるようになりました。

### エピソード 04 子ども主体の保育に向けて先生の関わりを改善

架け橋期のカリキュラムで「自分から気付いて、行動する子ども」など、主体性を育むことをねらいとしていたので、「待つ」「促す」「問う」「見守る」といった視点を大切にしながら保育を行うことにしました。

子どもが変わった

子どもが興味・関心をもったことに継続して取り組むようになり、じっくりと考えたり、進んでチャレンジしたりする姿が見られるようになるなど、遊びを楽しみながら自分の力でやり遂げようとする力が育まれてきました。

# 05 架け橋期のカリキュラムの実施・検証・改善



小学校編

## 架け橋期のカリキュラムを踏まえた園・小学校の実践を紹介します

### エピソード 01 教育課程を見直し・改善

架け橋期のカリキュラムを基に、幼児教育で育まれた資質・能力を踏まえた教育活動、中学年以降の学習の素地の形成の視点から、生活科を中核として合科的・関連的な指導が行われるよう教育課程を改善しました。

先生の指導が変わった

子どもが変わった

各教科等において、幼児期に育まれた資質・能力を生かした学習活動が行われるようになり、主体的に自己を発揮する児童の姿が見られるようになりました。また、合科的・関連的な指導を行ったことで、思いや願いを存分に発揮させることができ、中学年以降の学びを支える資質・能力の育成につながりました。

### エピソード 03 幼児期の体験を生かし、深い学びを実現

幼児期に野菜や花を育てた経験があることを知り、子どもに育てたい花、鉢に入れる土の種類や量、種をまく穴の深さ、鉢を置く場所を考えさせるなど、一人一人の子どもが幼児期の経験を踏まえて自己選択したり、自己決定できるようにしました。

子どもが変わった

子どもたちは育てている花に愛着をもって関わり、一生懸命お世話をする姿が見られました。また、同じ種類の種を植えても、成長が異なることに気付き、比べたり、考えたり、話し合ったりしながら、学びを深めていく姿が見られました。

### エピソード 02 スタートカリキュラムの位置付けを再確認

架け橋期のカリキュラムの開発に取り組んだことをきっかけに、校長が発足させた任意制プロジェクトチームが主体となって、小学校1年生の担任の「虎の巻」をコンセプトにスタートカリキュラムを見直し、幼児教育とのつながりを明確にしました。

先生の指導が変わった

スタートカリキュラムに、幼児教育施設の活動と各教科等とのつながりや低学年の特性を踏まえた指導の工夫、子どもが安心してできる教室環境整備などを位置付けたことで、小学校1年生を初めて担任する先生でも、学級経営をスムーズに行うことができました。

### エピソード 04 指導観の転換から先生の関わりを改善

保育参観等により、幼児教育施設の先生の子どもへの関わりを学んだことで、これまでは教師がしっかりと教えなければと気負っていたことに気付き、失敗したら子どもと一緒に考えればよいと指導観が変わり、子どもを信じて挑戦させるようになりました。

子どもが変わった

学級のみみんなでリレー遊びをしたいという思いから、すべて自分たちで企画、進行してやり遂げたり、採集した昆虫を育てるために、生育場所を自主的に調べに行ったりするなど、「やってみたい」の実現が主体性や行動力の高まりへとつながりました。



共通

## 架け橋期のカリキュラムを踏まえた園・小学校の実践を紹介します

### エピソード

#### 01 子ども同士の交流で円滑に学校生活をスタート

5歳児は、小学校生活への見通しをもち、入学への期待感を高めるとともに他園の友達との交流を深めること、小学校1年生は自分の成長を感じることをねらいとして、生活科の「秋まつり」で2つの幼児教育施設の5歳児と小学校1年生が交流活動を行いました。

**子どもが変わった**

小学校1年生は「去年、招待状をもらって嬉しかったから、私たちも書こうよ。」「年長さんと一緒に楽しく遊べるゲームがいいんじゃない?」など、自身の経験を踏まえて、相手意識や目的意識をもちながら考える姿が見られるとともに、自身の成長に気付く様子も見られました。

5歳児は、小学校1年生と一緒に遊ぶことをとても楽しんでおり、翌日も保育者に「続きをやりたい!」と伝え、木の実を使った洋服づくりを楽しむ様子が見られました。洋服づくりの様子を見ていた4歳児からも「私も作りたい!」との声上がり、遊びが広がっていききました。

また、異なる幼児教育施設の5歳児同士と一緒に活動したことで、入学後、「久しぶり!」「会いたかったよ!」とすぐに仲良く活動する様子が見られ、登校渋りの児童はゼロで、円滑な学級経営へとつながりました。

### エピソード

#### 02 家庭等との連携・協働を推進

架け橋期における望ましい生活習慣と学習習慣等の確立に向けて、架け橋期のカリキュラムに5歳児と小学校1年生の各時期に家庭で意識して取り組んでほしいことを位置付け、教育委員会が発行している通信を通して啓発を図っています。

**保護者との連携が深まった**

保護者から「通信を通して、望ましい生活習慣等について考えるきっかけになり、家庭でのルールづくりにつながった。」との声があるなど、保護者の意識を高めることにつながりました。

5歳児と小学校1年生が交流活動で一緒に作った飾りを入学式に飾る取組を行ったところ、「私が作った飾りだ!」「新2年生と一緒に作ったよね!」と喜ぶ新1年生の姿がありました。5歳児が交流活動を通して、小学校を身近な存在に感じている様子が見られました。



保護者からは、「通信で、幼児教育施設から小学校へと切れ目なく連続して教育活動が行われていることを知り、安心した。」「小学生との交流があった日がとても楽しかったようで、嬉しそうにその日の出来事を話してくれました。入学前に小学生との関わりがあるのは、親としても安心しました。」との声もありました。

# 05 架け橋期のカリキュラムの実施・検証・改善



架け橋期のカリキュラムの充実に向けて、取組を検証し、改善しましょう。

## 実践例

### 01 子どもの姿を基に、取組の成果・課題を整理

推進協議会で、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」等を活用しながら、架け橋期のカリキュラムの取組を実施したことによる子どもの変容について共有を図り、架け橋期のカリキュラムの改善点を明確にしました。

## 実践例

### 02 アンケート調査を実施

幼児教育施設・小学校の管理職、先生及び保護者等を対象にアンケート調査を複数回実施し、「幼児期及び架け橋期の教育の重要性」や「子どもの創造力や思考力を育むために大切だと思う遊びや学び」に対する意識の変容を見取り、架け橋期のカリキュラムを改善する際の参考にしました。

## 実践例

### 03 管理職や5歳児・小学校1年生の担当へのヒアリングを実施

推進協議会の構成員が、幼児教育施設・小学校の管理職と5歳児・小学校1年生の担当にヒアリングを実施し、架け橋期のカリキュラムを実施したことによる指導方法の変容や、子どもの変容、架け橋期のカリキュラムの実効性等について聴き取り、架け橋期のカリキュラムを改善しました。

## 架け橋プログラムの実施に当たり大切にしたい視点

幼保小の架け橋プログラムの実施に当たっては、以下のことを大切にしながら、関係者で共通理解を図りながら進めるとともに、関係者と共に振り返りながら改善を図っていくことが重要です。

- 子どもの思いや願いを大切にすること
- 幼小の連携・接続により主体的・対話的で深い学びを実現すること
- 実質的な話し合いや実践を重視すること
- 設置者・施設類型・学校種を越えた対話、協働、発信を行うこと
- ICTやオンライン等の活用による負担軽減や時間の効率的使用を図ること
- 持続的・発展的な取組とすること

Topic

架け橋期のカリキュラムの実施

# 05 架け橋期のカリキュラムの実施・検証・改善



自治体の  
みなさん!

私たちからのお願いです。先生方への支援をお願いします。

幼保小の架け橋プログラムの取組については、一部の地域では、幼小の合同研修や幼小の接続を意識した教育実践が取り組まれ、幼児教育施設において、幼児の主体的な遊びを支える働きかけが充実したり、小学校において、入学当初の小学校教諭等の指導方法が変わり、児童の主体的な姿がより見られるようになってきたりしているなどの成果が上がっています。

一方、本道全体を見ると、地域によって幼小接続に関する取組の格差が広がってきており、小学校1年生の不登校の増加率が高まっているなど、不登校対策の観点からも、架け橋期の教育の充実に取り組むことが重要となっています。

本道においては、私立の幼児教育施設が多いことから、幼児期及び架け橋期の教育に関しては、設置者や施設類型を問わず、教育委員会が有する学校教育の専門的知見を活かしながら、0歳から18歳までの教育の一貫性・連続性を確保した取組を進めるよう、お力添えをお願いいたします。



## 支援内容(例)

- 自治体内の関係部局との連携
- 関係団体との連携
- 幼児教育施設と小学校との連携のコーディネート
- 幼小合同研修会の実施 等



設置者や施設タイプの違いから、他の幼児教育施設や小学校とのつながりがなく、幼保小の架け橋プログラムを始めることができずに困っているという声が多くあります。

自治体のみなさんには、幼児教育施設・小学校間のコーディネートをぜひお願いしたいです。

私たちが、たくさんの力を身に付けて社会に出ていけるように、先生方への支援をお願いします。

「今後の幼児教育の教育課程、指導、評価等の在り方に関する有識者検討会」において取りまとめられた最終報告では、幼児教育と小学校教育との円滑な接続に向けた教育委員会の役割について、まとめられています。



[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chousa/shotou/189/toushin/mext\\_01929.html](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/189/toushin/mext_01929.html)

Topic

# おわりに

地域の人・自然・文化・産業・伝統などの中で、子どもは遊び、学び続けていきます。

地域のが、子どもの豊かな学びをつくれます。

子どもの育ちが、地域の未来へつながります。



子どもの学びと育ちの基盤をつくる架け橋プログラム。

始めましょう！子どもと地域の未来のために。

## 北海道教育庁幼児教育推進センター 「幼小連携・接続」ホームページ

【URL】 <https://www.dokyoι.pref.hokkaido.lg.jp/hk/gky/yousyouseituzoku.html>

【2次元コード】



## 文部科学省「幼保小の架け橋プログラム」ホームページ

【URL】 [https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/youchien/I2580I9\\_00002.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/youchien/I2580I9_00002.htm)

【2次元コード】



## 文部科学省 遊びを通じた学び

- 遊びは学び 学びは遊び “やってみてが学びの芽”  
～「やってみて」から始まる学びの芽（知識・技能や思考力等の基礎、  
学びに向かう力）の育成～（動画コンテンツ）
- 幼児教育と小学校教育がつながるってどういうこと？

【URL】 [https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/youchien/mext\\_02697.html](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/youchien/mext_02697.html)

【2次元コード】



## 文部科学省 国立教育政策研究所 教育課程研究センター編著 「発達や学びをつなぐスタートカリキュラム ～スタートカリキュラム導入・実践の手引き～」

【URL】 [https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/start/curriculum\\_I180322.pdf](https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/start/curriculum_I180322.pdf)

【2次元コード】



## 北海道版幼児教育スタートプログラム

令和7年(2025年)3月

北海道教育庁学校教育局義務教育課幼児教育推進センター